

## 眼瞼下垂の診断と治療

まぶたが上がらない、上方が見にくい

上まぶたが下がって視野が狭くなり、外見にも悪影響が

眼瞼下垂とは日本眼科学会のホームページによると「何らかの原因によって上眼瞼（上まぶた）が下がり、上方の視野が狭く感じられたり、外見が悪くなったりする不都合を生じる状態」と説明されています。

それらには、生まれつきのもの（先天性）と、加齢やハードコンタクトレンズの長期使用、ある種の緑内障、白内障などの内眼手術



【寄稿】 村上正洋

日本眼形成再建外科学会・日本眼科手術学会 理事、日本医科大学武蔵小杉病院形成外科元教授、まぶたとヒアのクリニック 千駄木プラザ形成外科 院長

術により生じるもの（後天性）があります。先天性のものは視力の成長を妨げる恐れがあるため手術時期が重要になります。一方、後天性の多くは治療の緊急性がなく、手遅れになることはありません。

上まぶたがひとみにかかり、不便を感じる時が手術の時期

日本形成外科学会の「診療ガイドライン」には「角膜（黒目）の中央にある瞳孔（ひとみ）の中心から上眼瞼までの距離が2ミリ以下になった時が手術適応」と記載されています。これが健康保険の適応になる一つの目安と考えられます。

また、眼瞼下垂が原因と考えられる訴えがあることも治療の前提として重要です。一般的に瞳孔の上縁に上眼瞼が被さり始めると

何らかの不都合を感じるようになりますが、手術の必要性は生活スタイルなどによっても異なりますので、一概には決められません。眼瞼下垂であっても日常生活に支障がなく、外見も気にならないのなら、治療の必要はないかもしれません。

ただし、眼瞼下垂の原因が重症筋無力症や眼瞼痙攣、眼窩（眼球の入る器）に発生する腫瘍など、背景に思わぬ疾患が隠れている可能性もあります。放置せずに専門医の診察をお勧めします。

眼科的知識と形成外科の手術を有し整容面も配慮する医師を

眼瞼下垂は眼科と形成外科で扱う疾患ですが、受診先選びの際には診療科によらず眼科的知識と形成外科の手術を有し、さらに保険診療であっても整容面に配慮する医師を探すとよいでしょう。

日本眼形成再建外科学会や日本眼瞼眼床手術学会など眼瞼疾患をメインテーマとする学会のメンバーなどが医師を選ぶときの一つの参考になると思います。

### 医療法人 倭桜会 りょうこ皮膚科クリニック Ryoko Skin Clinic

保険も自費も豊富な選択肢！  
形成外科専門医による眼瞼下垂治療

西林院長が経験で得た手技を駆使し、幅広い知識と技術で整容性にもこだわった眼瞼下垂治療を行っております。原因に合わせて様々な治療選択肢を提示、すべての患者様の笑顔のためにがモットーのクリニックです！



院長 西林 涼子  
日本形成外科学会認定 形成外科専門医  
日本レーザー医学会認定 レーザー専門医

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-1-3  
SENRIITOよみうり2F・3F クリニックモール内  
北大阪急行電鉄・大阪モノレール「千里中央駅」直結  
TEL.06-6873-6888

